

★カメラリポート★



3/30 子ども会農園・田植え体験

南国市子ども会連合会では、農業体験活動を子どもたちにもっと経験して欲しいとの思いから昨年度より野菜・果樹の植え付け体験を行っています。今回は稲生地区の橋詰昌明さんに協力を得て、極早生の「よさ恋美人」の苗を手植えしました。田んぼに初めて入る子どもや保護者からは大きな歓声があがっていました。



4/7 第13回岡豊山さくら祭り

3月末に急に暖くなったこともあり、当日は桜が散り始めていましたが、約1,500名の方が花見やステージイベントを見に歴史民俗資料館に来場しました。

「若武者もとちか君」をはじめとした南国市の当地キャラクターに加え、「はりまとやばし」も出演して会場が大いに盛り上がりました。



4/11 高知ヤクルト販売株式会社と連携協定を締結

「南国市と高知ヤクルト販売株式会社とのまちづくりに関する連携協定式」を行いました。「健康増進・食育」、「高齢者・障がい者福祉」、「子ども・教育」、「安全・安心な暮らし」などのまちづくりに連携して取り組んでいきます。

また、4月13日には高知ヤクルト創業70周年記念式典が開催され、協定の締結が報告されました。



4/13 南国交通少年団入団式

南国警察署で第27期南国交通少年団入団式が行われました。少年団を代表して、三和小学校の浜口紗嶺さんが団旗を受け取り、久礼田小学校の森井美咲さんが交通安全宣誓を行いました。

また、ポリンくんとポーリーちゃんと交通指導を学び、交通安全のリーダーとしての第一歩いを踏み出しました。少年団は「友達が事故に遭ってほしくない。」「南国市を守る仕事がしたい。」と意気込みを語りました。



4/23 一般社団法人四国クリエイト協会を南国市水防協力団体に指定

防災意識の啓発や訓練指導、災害時の水防資機材の提供など、水防活動への協力業務を実施する水防協力団体として指定しました。平時から災害時まで連携して防災活動に取り組んでいきます。



5/1 民生委員委嘱状伝達式

報告書は県内各図書館などで閲覧できます。
今年のエンコウ祭は前浜寺家の大湊公園などで6月1日(土)に開催します。雨の場合は2日(日)、さらに雨の場合は8日(土)に順延する予定です。
問い合わせ
生涯学習課文化財係
☎802・6062



昭和40年代の前浜寺家のショウブ小屋とクミヂ



ショウブ小屋と提灯がかかった橋で花火をする子どもたち

南国市後川流域のエンコウ祭は、夏の水遊びが始まる前(6月第1土曜日)に子どもたちが、エンコウという河童に似た妖怪を祭って水の事故に遭わないよう祈る行事で、夜には橋の周辺で多くの花火を楽しみます。南国市の南部を流れる後川流域の前浜・下島・久枝地区の各組ごとに伝承されていますが、存続が危ぶまれていました。
今回、エンコウ祭調査報告書を刊行し、行事の特徴を明らかにしましたので、一部ご紹介します。

南国市後川流域のエンコウ祭



エンコウ祭は①子どもたちがショウブの葉で小屋を作り、キュウリの酢もみなどを供えする②橋などに提灯を飾る③花火をするという流れで行われます。

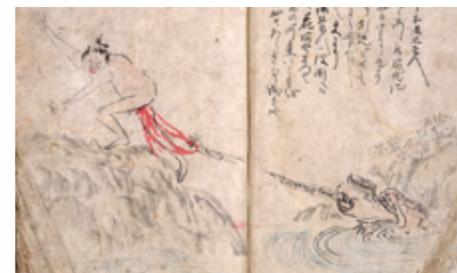
平成26年のエンコウ祭で、初めて全8地区の様子を同時に記録しました。前浜浜窪では花火の後に子ども相撲をしたり、久枝地区では最後にエンコウの川流れをしたという大きな違いの他に、ショウブ小屋の作り方など細かな工程も記録できました。



久枝中組のショウブ小屋



前浜寺家のショウブ小屋



江戸時代の文献「絵本集興」に描かれているエンコウ

県内に分布する類似行事
エンコウ祭はエンコウを祭る、子どもが主体となる、提灯を飾る、ショウブで小屋を作る、花火をする、寄付金を集めるなどのさまざまな要素が詰まっています。県内には、香長平野を中心にごうした要素を持つ行事が多く残されていますが、全く同じものは一つもなく、お地蔵様にお祈りしたり、盆の行事として行われているものもあります。
河童・エンコウ伝承
土佐では江戸時代以降、エンコウやシバテンなど河童系の妖怪の伝承が文献にいくつも残されています。後川流域ではエンコウに関する逸話は伝わっておらず、エンコウ祭がなぜ、いつ始まったのか解明できない謎もたくさんあります。

過去のエンコウ祭
昔のエンコウ祭は年長の男子が大將として下級生に祭りのやり方を教えることで次世代へ伝承していました。また、川へ下りて洗いや物などをするクミヂという場所があり、川が生活の一部であった風景が浮かびます。時代の変化とともに生活や伝統行事も形を変えながら受け継がれています。